

書字力の低位な生徒に対する個別指導と

漢字学習への意欲づけ

高 下 正 毅

一、ねらい

○読字力・書字力の伸長に国語科の授業の中でいろいろ努力してきたが、それでもクラスの中で何人かは低位なままにおかれがちであった。このたびは、授業時間外に担任教師が個別に指導して、学習意欲と書字力の向上を図りたい。

○担任教師と生徒との接触の機会を多くもつことによって、学力の向上ばかりでなく人間関係も深めてゆきたい。

二、方 法

○生徒が小学生の時に使った教科書（しよがくこくご・山本有三・石井庄司・桑原武夫編集・日本書籍）の小学一年から順に、教科書に使用してある読み方で新出漢字を一日二〇字出題する。

（誤答統出でその日に覚えられなくなったので、五年生段階から一〇字になる。）出題は、なるべく教科書の文章に近い表現の中で新出漢字を出すようにする。

○朝会のない曜日の朝、（火水金土曜日の朝）八時一五分～八時三五分に問題用紙を配り、考える。

○隣席の者と交換して解答を見ながら書けなかった字の抽出をする。

る。

○休憩時・放課後等を利用して漢字ノートに自主学習をし、担任の指導を受ける。

○グラフ（教育漢字テスト記録表）（次の頁参照）に記入して自己評価し、励みにする。

三、計 画

四月 方針決定

五月 実態調査

六月 個別指導実施（七／四 一回目を実施）

七月 個別指導実施

八月 中間集約と反省

九月 個別指導の継続

十月 実践の集約（二／一五 六五回で終了）

十一月 実践の集約

<ノート形式>

月/日	回	誤った文字	読み		意味	短文	練習
			音	訓			
9/9	12	公	コウ	おおやけ	おおやけ, 社会一般	会議で公の場に立つ。	公・公
9/16	16	軽	ケイ	かるい	かるい, てがる	木製バットは軽い。	軽・軽
〃	〃	号	ゴウ		さけぶ, あいず, 名前	第一号に乗る。	号・号

〈教育漢字テスト記録表の例〉									
30点	見入	角	科	味					
19点	天	風	絵						
18点	当								
3点									
2点									
1点									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	回	回	回	回	回	回	回	回	回

四、実 践 (中学一年生 男女各二〇名)

1 教育漢字抽出テストをし、実態をつかむ。(五月二日実施、各学年より一〇問新出漢字を抽出し、五問できなかった人数を表にすると)

小3	小2	小1
11人	5人	2人

小6	小5	小4
20人	25人	14人

小学三年から書けない文字が増し、小学五・六年はクラスの約半数が五割できない。この抽出テストでは、教科書で習った文脈に従わなかったから多少悪くなったこともあるが、それにしても習得率が低い。クラス全員を対象に教育漢字の復習をする必要を感じる。学習効率を重視するなら小学三年から復習する方がいいが、書字力の低位な生徒を対象に復習するのだから小学一年から始めた。(F君・Tさんの二人が五割以下)

個別指導する生徒を特定し、毎回指導するか、たびごと、誤答のあった生徒全員を指導するか考えた。時間はかかるが、誤答のあった全員を個別に指導することにした。個別指導する生徒を数人に絞る、毎回指導すると、本人が劣等感をもったり、他の生徒が差別的に見ることを心配した。

学年が高くなるに従って誤答の生徒が多くなり、指導する適当な時間と場所がなくて困ったが、業間と昼休み、放課後をフルに

使つて六年の漢字まで終えられた。

2 漢字学習アンケートをとり、実態をつかむ (六月二一日実施)

○漢字の読み書きについて

読み書きが好き

一五・四%

読みは好きだが書くのはにがて

五九・〇%

書くのは好きだが読むのがにがて

一七・九%

読むのも書くのもにがて

七・七%

○漢字の読み書きを練習して得意になりたい

一〇〇%

○読書はよくするほう

六二・五%

読書はあまりしないほう

三七・五%

○国語以外の教科のテストで

漢字が読めないために困ることがよくある

〇%

ときどきある

七〇%

ない

三〇%

○国語以外の教科テストで

漢字が書けないために困ることがよくある

一〇%

ときどきある

六五%

ない

二五%

3 漢字力不足が他教科に及ぼす影響の一端

個人指導で一番多く来るF君に、数学と社会の期末テスト

(F君の受験したプリント)を読んでもらった。

○数学 西洋紙一枚のテストのうち、文章があるのは約1/2

そのうち読めない語句が一五個あった。(積は「ひく」と思

っていた。異符号・絶対値・求めよ・問・等しい、も読めない

い。

○社会 西洋紙一枚、他に資料と解費用紙。西洋紙一枚の問題

の中で、約3/4が文章。読めない語句が二七行中三四個、一

行につき四語読めない行もあった。

4 F君とTさんの誤答分析

誤答のあった生徒全員を指導する中で特に書字力の低位なF

君とTさんの誤答を分類した。

	F 君	T さん
同音の他の字をあてる	33 字	35 字
同類義の他の字をあてる	10 字	7 字
字形が正しくないもの	31 字	126 字
関連のない字をあてる	23 字	45 字
無答	383 字	247 字

○F君・Tさんに共通していることは、字形の正しくないもの

が多いことである。漢字の部分部分を関係もなく寄せ集めて

いる。教材で新出漢字に出会ったとき、しっかりと記憶させ

なくてはならないことを痛感する。次に、文脈を考えずに同

音の漢字をあてることである。同義語・類義語のあて字は少

ない。漢字の意味をよく理解していないことが原因と思う。

新出漢字の意味を調べ、例文を作り、使えるようにしておく

なくてはならない。中学校の教材で出る新出漢字の扱い方を

反省し、工夫していくよすがとしたい。

○未習得漢字はF君四八〇字・Tさん四六〇字とF君が多いの

に、上の表の漢字がTさんより少ないのは無答が多い為である。一般的に、慎重で消極的な生徒に無答が多い。

F君とTさんの学年別誤答数(習得率)

	F君	Tさん
小1	2 (97%)	2 (97%)
小2	10 (94%)	17 (89%)
小3	94 (51%)	66 (66%)
小4	134 (34%)	104 (49%)
小5	124 (38%)	136 (32%)
小6	116 (37%)	136 (26%)
計	480 (58.5%)	460 (59.8%)

小学校四年から正答率が五〇%を割り、小学校一年の漢字も正しく書けないものがある。

6

F君・Tさんの漢字力低位に置かれている背景

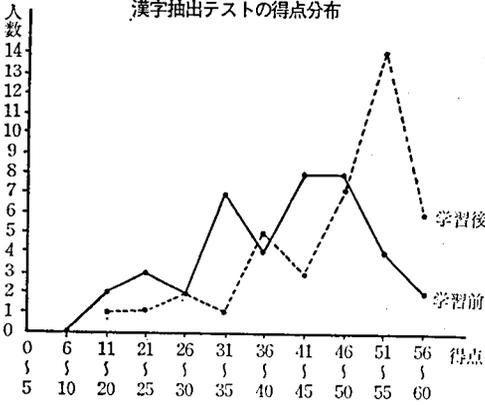
F君——病弱で、赤ちゃんの時から喘息。四才の時、二回交通事故にあい頭を打つ。現在も一年に二回病院で脳波をとってもらっている。最近脳波の異常はなくなった。八才のとき日本脳炎になり、一八時間意識を失う。こういうことがあったので、今でも天気が悪い時やひどく心配した時は頭が痛くなる。父母も、勉強のことより病気が気がかりで、あまり強く言わなかったことを今反省されている。公立高校入試問題が新聞に出ると切り抜き、父母とF君と一緒に考えたり、一年間に習った漢字の総まとめのページをお母さんが書き取りさせたりしていられる。

中学入学後、小学一年〜中学二年までの復習をし、間違えた漢字について個人指導をしたが、文の意味を考えずに律↓立、副↓複、代↓題、晚↓番、拡↓角としたり、字形を正しく覚えないうで助↓敗、輪↓軸、遊↓逸と書いたりした。その日に間違えた漢字を正しく覚えても、一週間経って調べると、また以前の状態に近くなっているという工合で、遅々とした向上ぶりであった。

Tさん——妻子ある男性との間に産まれたので母一人の手で幼時は育てられ、小学校二年の二期期から父の家庭に引きとられた。父は市場仲買人、義母も働きに出、その家の三人の子どもは既に結婚しているという状態なので、放任され、孤独な生活であった。マンガ雑誌を乱読し、外ではあまり遊ばない。中学一年の時、また実母の所へ帰った。実母も病院の炊事婦として働き、忙しいが、以前の状態よりは余程落ち着き、友人もいる。相変わらずマンガ雑誌が好きで、中学に入ってから自分でも描いている。テレビも毎日五・六時間見ている。マンガの斜め読み、瞬間的なテレビの映像のためか、Tさんの誤答には字型の正しくないもの(走↓辻、共↓協、窓↓窓、鏡↓鏡)が多い。誤答は二三字中一二六字、約五九%に及んでいる。新出漢字に出会った時の新鮮な印象、しっかりとした記憶、漢字の成り立ちや意味の学習の大切さを痛感する。野地潤家先生が「語句、語彙指導の課題と方法」(明治図書)で、九鬼周造博士の「偶然性の問題」と

7 書字力の向上

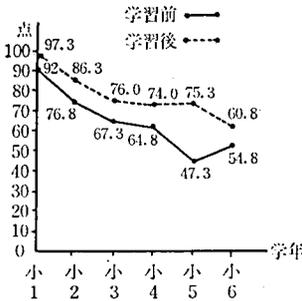
漢字抽出テストの得点分布



「『目撃する』という語は、印象深い語として、わたくしの胸底に、一つの座を占めることとなった。この種の語句を、『印象語彙』と名づければ、読み手はしばしばみずからの読書生活を通じて、こうした印象語彙をえていくように思われる。」と述べていられる。新しい言葉との新鮮な出会いによって「印象語彙」を身につけさせることが、漢字復習による習得より余程有効だと思ふ。

8

クラス平均点の推移(1年)



正答率の低い漢字「子犬が生まれた。」の文を「小犬が生まれた。」と書いた。

漢字復習をする前に教育漢字の抽出テストをし、小学一年～小学六年までの誤答を個人指導した後に、前にしたのと同じ抽出テストをした。その結果、F君は六一・五％、Tさんは二五％の向上が見られた。
3～7まではF君とTさんについて見てきたが、誤答のあった生徒は全てF君・Tさんと同じように個人指導してきた。教育漢字抽出テストの得点を一〇〇点満点に換算すると、六七・〇点から七八・三点とクラス平均で一・一・三点向上している。学習前の成績が良かった上位四名についてはあまり伸びが認められなかったが、中位から下位にかけては大きな伸びが認められた。

小学三年 五五%公 (「公会堂で集会を開く。」の文を「講会」と書いた)

小学四年 三〇%貯 四〇%清 四五%救 四七・五%賞航
五〇%貨 五五%積試 五七・五%初加師 六二・五%孫

六五%争副 六七・五%解包
小学五年 一二・五%観 二二・五%積 三二・五%券 三五

%刊 四〇%収 四二・五%承 四七・五%講 五〇%災
五二・五%制劇 五五%鋏 五七・五%党 六二・五%述蔵

六五%善版 六七・五%銅余演創貧
小学六年 七・五%式 一五%閣 一七・五%是 二二・五%

穀障操延縦 二七・五%后看 三〇%陸 三二・五%納劬
三五%磁潮兆奏 三七・五%批尊討銅臨釈否 四〇%貨 四

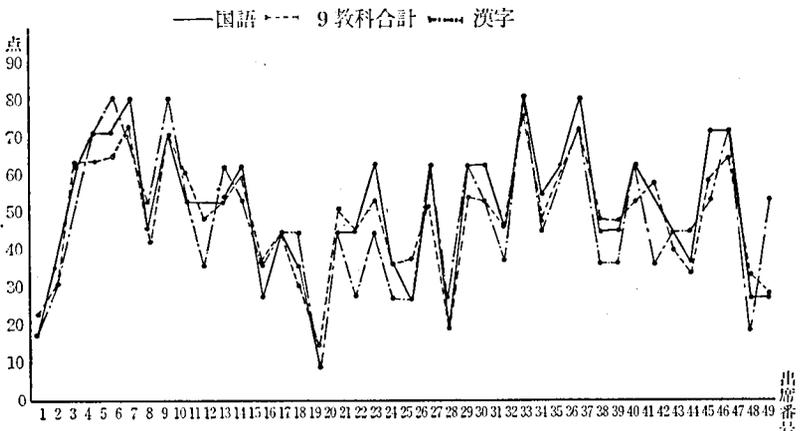
二・五%補壹革揮 四五%沿認至 四六%策翌嚴難郵 五〇
%訪朗呼雷 五二・五%棒域忠兼欲 五五%專糖降晚熟皇冊

五七・五%展宅拝厝 六〇%就傷処飢 六二・五%誠推疑担
聖 六五%誤映俗困胸蔵 六七・五%危街裏干卷济仁

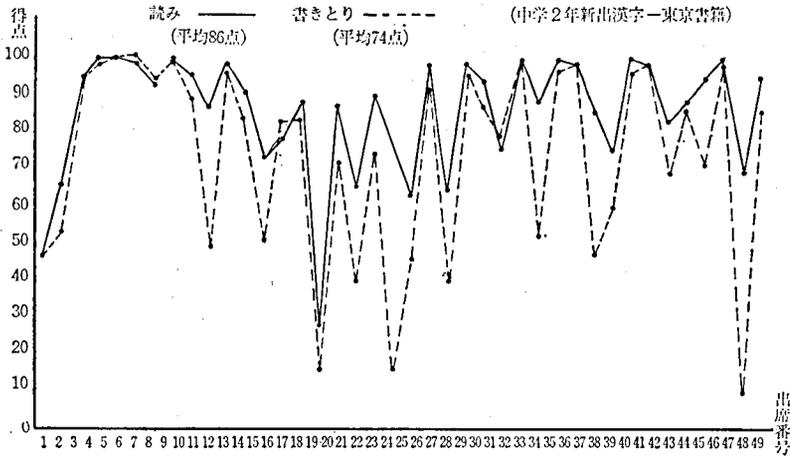
9 漢字力・国語科の成績・九教科の成績の関連 (二年一組 四〇人学級 男二一女一九)

中学二年で習った新出漢字の読み書き得点合計を、他教科の評価と同じ様に上位から二%を一〇、五%を九、九%を八、一五%を七、一九%を六、一九%を五、一五%を四、九%を三、五%を二、二%を一と一〇段階評点にした。九教科の一〇段階評価合計と比較するため、漢字力と国語科一〇段階評点を九倍して表を作ると左の様に非常に深い関連が見られる。(九教科

の評点は二年の学年点



中学2年生新出漢字を中学2年生に教科書終了後総復習した結果



10 既習漢字と未習漢字の読みと書き取り

中学二年の教科書(東京書籍)終了後、新出漢字三七五字の読みと書き取りのテストを教科書の文のまま出題した。その結果読みのクラス平均八六点、書き取り七四点であった。毎朝一〇字ずつ短学活で復習していたので、もう少し良い成果(読み九〇点、書き取り八〇点)を期待していた。一学期間、私が入院していたことも影響したと思う。また、読字力に比べ書字力が異常に低い一二人については、指導の工夫があったと思う。漢字を覚えようとして、何十回もただ繰り返し書いて、そのうち途中で書き違えてそのまま覚えてしまうという生徒もいる。一字一字バラバラに記憶するのでなく、漢字の成り立ちを考え関連する字をあげて、整理して覚える必要がある。新指導要領でいう「とり立て指導」と、新出漢字に出会った新鮮な「印象語築づくり」が漢字、語句指導で必要と思う。

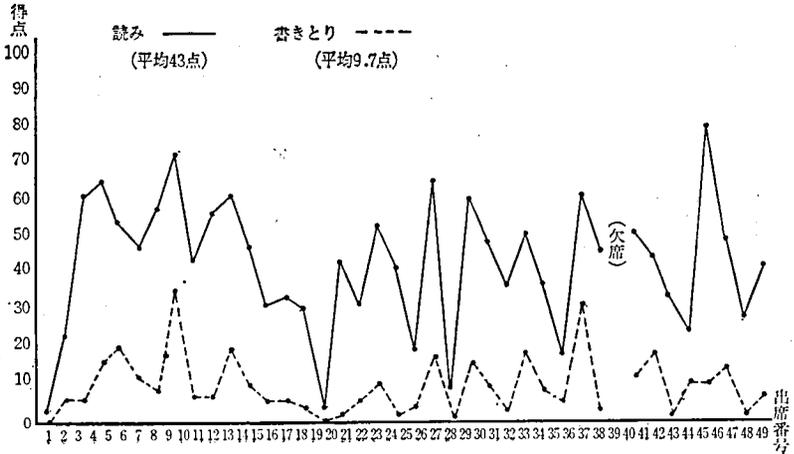
新出漢字を学校で習うまで、生徒はその字を全く知らないの
 であろうか。(P35上の図表参照)

情報化社会の今日、そんなことは考えられないが、表の様に
 書く力では1-10も書けない漢字があり、読む力も1-2に満た
 ない。意味や適切な使い方となると、もっと出来ないであろう。
 やはり、新出漢字に接した際の丁寧な指導が必要である。

生徒は国語教科書で新出漢字と会う前なのにどうして判った
 のであろうか。アンケートによれば次のようである。

- 1 小説 四二・五%
- 2 勘 二七・五%

中学3年生新出漢字を中学2年生の3学期にした結果



- 3 マンガ 二五%
 - 4 新聞 一七・五%
 - 5 理科・社会の教科書 一七・五%
 - 6 テレビ 一五%
 - 7 広告 二・五%
- 2の勘というのは、漢字の構成を知って、旁を読むとか、熟語を思い出して推察するという方法である。漢字は、こういう理解が出来る事が長所である。こういう勘が働くようになることが大切である。

11 漢字学習への意欲づけ

漢字を覚えよう、漢字で書けないと恥かしい、という意識は、今の生徒にはあまりない。地名・人名を平仮名で書いても他教科では○になる。むしろ、漢字を間違えて×になることを恐れて、知っていても平仮名で書く。黒板に先生が漢字で書いてもノートは平仮名で写すという生徒もいる。なるべ手間を省こうという横着者である。そこで、次のようなことを試み、意欲づけようとした。

イ「大和の塔」 瀬戸内 晴美(東京書籍)の単元を習っていない時にP二三四、P二三五の二頁を漢字を一文字も使わないで(ひらかなばかりで)タイプを打ち、内容を読み取らせた。そして「ひらかなばかりの文章を読んで、漢字の働きについて考えたことを書きなさい」と言って書いてもらった。

○ぼくは今まで、先生が黒板に漢字で書いているのにノートにはひらかなで書いたり、わからない字も辞書でしらべなかつ

たので、これからは自分でおぼえる気持ちで黒板の漢字はノードに書いておぼえて、わからない漢字はすぐ辞書で調べる。(Y君)

○いつもは何も思わず書いていた漢字もひらかなだけで書いてあると、その文の意味もあまりつかめないし読むにしてみてもよく読みにくい。そういう意味でやはり漢字は大切なんだなと思う。最近では漢字を書くのをしんどがって、よくひらかなで書く人もいるけど、漢字というものを再認識して、日常しつかり使って行きたい。(Mさん)

○ひらかなばかりだと区切れる所が判らずとも読みにくい。また意味も判りにくい。漢字の大切さがよく判った。今まで漢字を軽視していたので、これからは漢字の重要性を理解して、なるべく漢字を利用していききたい。(Y君)

右の様な感想がほとんど全部を占めていた。

ロ クイズをし、漢字の成り立ちに興味をもたせた。「漢字パズル」馬場雄二著や「日本語実力テスト」斎賀秀夫著の中から、中学生が興味をもち、漢字の知識が深まるようなものを選んだ。その一部を左にあげてみる。

○次の各グループの漢字に共通するへん・つくり・かんむりなどをつけ如えなさい。

① 欠・反・司・我・官(飲飯飼餵館)

② 尺・区・主・奇・負(馱馱駐騎驗)

○次の各グループには、一字だけ所屬する部首の違う字がまぎれこんでいます。それはどの字で、どの部首に属しますか。

① 札・机・材・村・相(相一且)

② 劣・劣・努・男・勇(男一田)

○次のa~eの□の中に、それぞれのヒントに關係のある漢字を一字ずつ書き入れなさい。

① 同じ「かんむり」を持つ字

a 落□生 b □い話 c 暗□が得意 d 下水□をうめる
e 城を□く (a 第 b 笑 c 算 d 管 e 築)

② 同じ「へん」を持つ字

a □のはずれ b 石□をたたく c □長先生 d □に向かう
e 森□鉄道(a 村 b 橋 c 校 d 机 e 林)

○次のカードを組み合わせて、漢字二〇作りなさい。

【主】 【寸】 【厶】 【厶】 【土】 【用】 【一】 【西】 【冫】 【易】 【木】 【也】 【反】

(池住陽飯注林付他湯村返連活坂地話柱場討板など)

○右の列には漢字の偏旁冠脚が並んでいる。それらがもともと持っていた意味を左の列から選んで結びつけなさい。

ト トネリ 佳 戸 イ シ ハ ヌ

家衣鳥心氷神火刀水人

(一水、ト心、ト神、リ刀、佳鳥、戸家、イ人、ト水、ハ火、ト衣)

生徒の感想は「嫌いな漢字もクイズにすると楽しくできた。」「楽しみながら漢字の組み立てなどが判ったので良かった。」「いつも見慣れている字があんなクイズになるなんて夢にも思っていなかった。クイズにして学習すると、今までお

もしろくなかった漢字に急に興味が生じた。」といった様なのが多かった。

ハ 教科書を学習し終えたとき、巻末の新出漢字一覧の漢字を部首別に分類する作業をグループでした。辞書に親しむし、部首名、部首の意味、漢字の成り立ち、旁が発音になること、どの字とどの字が仲間になるかということ等が判って、グループで楽しく学習した。

ハ 漢字の成り立ちを説明

○象形文字——日月山丘川水火人戸口齒目耳手又止足目毛女母

子牛羊豕犬馬象虎鹿鳥隹魚木草米田矢刀門

○指事文字——上下木末天至出

○会意文字——男轟林森婦炎臥臨臨覽

○形声文字——青(すみきった色)——晴(すみきった日)——清(すみきった水)——精(精白してすみきった米) 同(つつ)

ぬげ、どこも同じ直径である)——桐(つつ型をした幹を持つキリの木)——桐(つつ型の胴体) 洞(つつぬけのホラ

穴)——筒(竹つつ)

○仮借文字

○転注文字

「漢字の知恵」藤堂明保著、「漢和中辞典」(貝塚茂樹・藤野岩友・小野忍編)、「字源」(簡野道明著)などから興味ある文字について説明した。

二 班競争 一学級六班あるので、單元ごとの漢字テストで班の合計点はどちらが高いか競争した。教えあう、励ましあう

という面で効果があった。

野地潤家先生は「語句・語彙指導の課題と方法——語句・語彙学習史の事例を中心に——」(明治図書)で御自身の小学校から旧制中学校、広島高等師範学校、広島文理科大学における語句・語彙学習史を詳細に述べられ、最後に語句・語彙指導の課題として次の一〇項目をあげていられる。

- 1 学習者にどのような語句学習の場(拠点)を用意していくか
- 2 学習者にことば(語句)の「新生」をどのようにさせていくか
- 3 学習者に自覚的な語句獲得の機会と場とをどのようにとらえさせるか
- 4 学習者の思考力を伸ばし、抽象的な語句の習得をどのようにさせるか
- 5 学習者における印象語彙をどのように扱っていくか
- 6 学習者に「言葉を生む」(藤村)ことを本体とする語句の学習をどのように進めさせるか
- 7 学習者に語句・語彙学習の典型的体験をどこでどのようにさせるか
- 8 学習者に語句選び、語句使用に失敗させないようにするにはどうすればいいか
- 9 学習者に語句・語彙の獲得・拡大・改善・活用への努力をどのようにさせていくか
- 10 学習者・指導者ともに、和語・漢語の習得についてどのような

にとり組んでいくか

「いずれも大きく重い課題ばかりであるが、先達のすぐれた実践にも学び、みずからもくふうして、適切な方法の発見をさらに心がけていくようにしたい。」と述べていられる。学習者に対してどういう手だてを施したらよいか、至らぬながら試行してきたのだが、10の「学習者・指導者ともに、和語・漢語の習得についてどのようにとり組んでいくか」は全く虚を突かれた様で、自分のことは棚に上げて学習者のことはかりかかずらわっていることを反省した。自分に厳しい野地潤家先生の姿勢に学んで自己研鑽に励むと共に、より良い指導法を求めて模索を続けて行きたい。(三原二中における実践)

(広島県立三原高等学校教諭)